

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」地域活性化・まちづくりへの応援

メッセージ

会報

NO. 21

2014.11.30発行

編集責任：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第 21 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『石碑に刻まれたふるさとの歴史』

－「林 金兵衛君碑」を中心に－

11月2日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において第21回「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『石碑に刻まれたふるさとの歴史－林 金兵衛君碑を中心に－』で開催しました。

歴史資料としての石碑保存の重要性と石碑の見方を「林 金兵衛君碑」を中心にして「ふるさと春日井学」研究フォーラム 会長 河地 清氏に発表していただきました。

市民27名が熱心に参加し質疑応答がありました。



発表者：河地 清 氏

会場風景

－発表要旨－

「石碑に刻まれたふるさとの歴史～林金兵衛君碑を中心に～」と題して河地清氏の講演があった。発展史を中心とした経済史を研究してきた。幕末は農民層の分解が必要な時期であった。春日井郡(明治13年2月に東西分離)は資本主義の発達面で先進地域であった。さまざまな史料が研究対象になった。近藤哲生著『地租改正の研究～地主制との関連において』(1967年、未来社)では林金兵衛は豪農として取り上げられた。「林家文書」を分析した

結果、**寄生地主**だった。名望家・素封家であった。自分も金兵衛を研究することとなり、地元からの研究を全国で紹介してきた。地元では、**津田応助(1890-1967)**が1925年(大正14)に書いた『**贈従五位(じゅごい)林金兵衛翁**』(顕彰会刊)がすべてであった。534頁のうちの三分の一が祝辞的なものであった。

注)津田応助は「東春日井郡史」「小牧町史」「愛知県史」「木津用水史」の編集委員、小牧市立図書館に彼が集めた「**象山文庫**」を寄贈した。

自分が研究テーマとした部分はすでに『春日井市史』などに起されていた。私は、故林千代さんの力を借りながら、林金兵衛日誌を読み検討し、ついに**福沢諭吉との関係**を明らかにすることができた。

1. 石碑の見方～「林金兵衛君碑」を例に

石碑は「石に文字や造形を刻んだ石造物」であり、古代の昔から自らの生業を石に託して後世の人々に伝えようとしたものである。中国文化の中に強く根ざしたもので、「常に永久不滅の願望からくる永久不変の空間と時間に基づいた雄大な考え方」からきていると、小野寺啓治氏(美術評論家、(株)書道ジャーナル研究所主幹)の言葉を引用された。

- ① 碑の題字は碑の顔で右から左に書かれており「篆書体」が多い。**篆額**以外は**題額**と呼ぶ。
- ② **撰文(課)**は後世に伝えることを目的にした文章。
- ③ 建碑の年月以外に、「文章・揮毫・彫り」によって碑の価値が決まる。
- ④ 特に、彫りによってその価値がわかる。丸彫り、篠彫り(断面形上が丸い、円彫りの一種)、葉研彫り(断面形状がV字状、金石の彫り)がある。機械彫りでは風合いがでない。



川口一彦さん(愛知書写書道教育学院長、牧師)の「林金兵衛君碑」の大きな拓本を掲示し石碑の見方を説明された。

「君諱(いみな)**重勝**姓源氏…其先(先祖)出於木曾義仲今井兼平…」と撰文の後に功績を讃える**漢詩**があり、日付の**明治十七年甲申二月**がある。次の行の中ほどに「**従五位徳川義禮(あきら)題額**」とある。下に**匏菴(ほうあん)栗本鯤(こん)**とある。匏菴は瓢箪庵の意である。**栗本鋤雲(じょうん)**である。鯤は字(あざな、学者などの別名)で、鋤雲のことと気づかず、この人物がどれほどすごい人物かはこれまで語られてこなかった。この大人物の「撰」(撰文)である。

注) 栗本鋤雲(1822-1897)は幕末の幕臣

で、外国奉行を務め、勘定奉行・箱館奉行組頭も兼務した。奥詰医師でもあった。大政奉還・幕府滅亡はフランスで聞いている。新政府からの誘いを幕府に仕えた身として潔しとせず謝絶し隠退。以後、ジャーナリストとして生きる。板垣退助は報知毎日新聞主幹(1873-)時代の部下であった。福沢諭吉とは旧幕臣の会合で同席している。この会合で勝海舟を「下がれ」と怒鳴ったとか。近代民法典の模範とされるナポレオン法典をわが国に初めて紹介したのも栗本鋤雲であった。1867年(慶應3)のこと。福沢諭吉と同じ翻訳方をしていて、福沢とは本音で話せる関係だったと書簡からもわかる。

「撰」の次に「**敬堂福岡欽崇書**」とある。敬堂は「号」、欽崇は「名」。敬堂福岡欽崇(1842-1921)は漢学者だが、書を教授した。書は世尊流の飯田一無に学んだ。漢学は伊藤博文の師でもある佐藤牧山や伊藤鳳山に学んだ大物。

「撰」「書」の次に二字下げで小さく「**高木徳兵衛鐫**」とある。「鐫(せん)」はノミ・彫るの意味。「林金兵衛君碑」を見て、この彫師まで読む人はまずいない。「鐫」の字も難読文字。

「歴史資料としての石碑」は①建碑の目的②建碑の時期③誰の手によって建碑されたか等を探求、考証することで歴史資料となる。「石碑の価値」は、文章づくり、書の揮毫、文字の彫りで決まるという。以上が長年石碑研究された成果の披瀝である。

2. 林金兵衛君碑の撰文中の「其祖先出木曾義仲臣今井兼平」のこと

近藤雅英氏による林金兵衛君碑の解説を資料として添付された。記念碑の撰文に刻まれていることは①先祖は木曾義仲の家臣今井四郎兼平、その孫男阪光善と改名し、後上条城を築城した。②重之のとき林姓に改名、帰農した。③28世重勝金兵衛は総庄屋となり尾張藩の信任厚く、地域に貢献した。④明治元年藩老田宮如雲編成の草薙隊に参加、藩に貢献、廃藩後、戸長、区長歴任⑤地租改正に際しては飯田重蔵、梶田喜左衛門らとともに歎願運動⑥三階橋に終結した農民達を身を挺して説得、明治天皇直訴を阻止⑦元尾張藩主徳川義勝から3万5千円の救済金を受ける。後年地価更訂の約束を取り付け運動は終結した⑧明治13年に東春日井郡長になる。翌14年3月57歳で死去⑨栗本鋤雲の金兵衛を讃える撰文・漢詩(「匏菴遺稿二」(明治33年)に所収)⑩碑陰(裏側)に春日井郡四十二村代表 発起人総代梶田喜左衛門、飯田重蔵とある。

今井四郎兼平は1184年頼朝軍に追いつめられ、琵琶湖畔の栗津の戦いで木曾義仲とともに討ち死した。享年32歳だった。近江八景のひとつ大津市晴嵐(せいらん)に兼平の墓がある。北橋村、木祖村、長野市、川中島にも兼平塚が伝わる。ところが、多治見市諏訪町神田(旧小木村)に今井兼平の慰霊碑が建つ。「塚碑」に今井兼平一族がこの地まで落ち延びて隠れ住んだとある。諏訪神社へ奉納する「**小木棒の手**」はその落ち武者が近隣の農民に教えた武芸と伝えられる。西の牛臥山を越えた春日井市**外之原**にも源平合戦の頃の「**落ち武者**」が住み着いた集落であったという伝説がある。「塚碑」にはこう書かれている。「琵琶湖畔の栗津の戦いに敗れた木曾義仲の智将今井四郎義仲の一族は敗走の途中追討の手を逃

れて山深いこの地に隠住し時至らば挙兵の夢もむなしく八百有余年の歴史と共にこの塚の奥深く今井一族の祖として今に伝わっています。昭和五十五年五月」。今井一族墓石群や隠住の地碑などスライドでその風景を紹介された。林重登(しげと、生没不明)は今井兼平から数えて14代目。その父林盛重の代まで上条城主だった。信長の支配下になり農民となった。秀吉は戦いを終えた後は取り壊す条件で上条城や吉田城を建てさせたための取り壊しだった。重登が新たに屋敷を建てた。龍泉寺から兵を率いて少しの期間滞在した礼に重登を総庄屋に指名し、その後長く林家は代々庄屋を勤めた。

1608年に伊奈忠次の巡検を補佐した礼に下街道沿いの土地をもらっている。林金兵衛重勝は28代目である。「林金兵衛君碑」は30代林小参重威が下街道に建てたが、平成5年に上条の本宅に移した。

以上、中身の濃い講演であったので、記録も長くなった。しかしかなりの割愛がある。

(記録：塚田 忠雄)

OPINION

歴史資料としての「石碑」は地域の「社会的共通資本」

先日(10/18)経済学者宇沢弘文さんが亡くなりました。ノーベル経済学賞に最も近い日本人と言われた学者でした。その宇沢さんは、「社会的共通資本」という概念を研究することが経済学であると言われました。「社会的共通資本」とは、社会のなかに存在する共通の財産のことを指します。自然環境、医療、教育、福祉、文化財等々を社会共通の公共資産として、それらの限られた資源をどれだけ有効に分配・活用するかを研究することが経済学であると言われました。代表的論文『自動車の社会的費用』(岩波新書1974年)では、自動車産業の発展は、GDPを拡大させるプラス面の一方で交通事故、大気汚染といった多額の社会的費用を生み出す負の面を指摘され、産業の発展は利益(金儲け)追求のみではなく、社会共通の財産の保護、活用をどのようにしてゆくかを研究することであると言われました。

地域に存在する歴史的な財産、自然、文化等々は資本(お金)という概念からは普段意識されないものですし、経済的概念の発想の視野には入っていません。ですから、利益追求とか費用対効果を優先する資本効率第一の経済行為の前には問題視されませんから簡単に犠牲にされてしまいます。ましてや「文化財指定」という「公」のお墨付きもない存在は、どんなに地域の人々の愛着や強い思い入れがあろうともいとも簡単に消滅の憂き目にあって行くのです。これこそ宇沢さんのいう「社会的共通資本」の損失という現象にほかなりません。現代社会は、「これでよいのか」を問うている時代だと思います。「地方創生」「ふるさと意識」に関心が集まるのはそういうことではないかと思えます。

たかが「石碑」されど「石碑」です。路傍の一つ一つの「いしぶみ」にも地域の歴史と人々の生業のドラマが刻まれているのです。地域を愛するとは、そうした小さな一つ一つ

の「社会的共通資本」を大切に保護し、地域の精神的財産として活用して行くことの重要性を訴えていると思います。

春日井市は、自然環境の保護として「**保存樹**」条例を制定し、「社会的共通資本」である樹木の保存と活用を推し進めています。同様に文化政策の一環として、地域の歴史と文化を保存し活用して行くための「**保存碑**」条例を是非制定されんことを行政にお願いしたいと思っています。

(文責：河地 清)

「ふるさと春日井」に新碑蹟誕生！

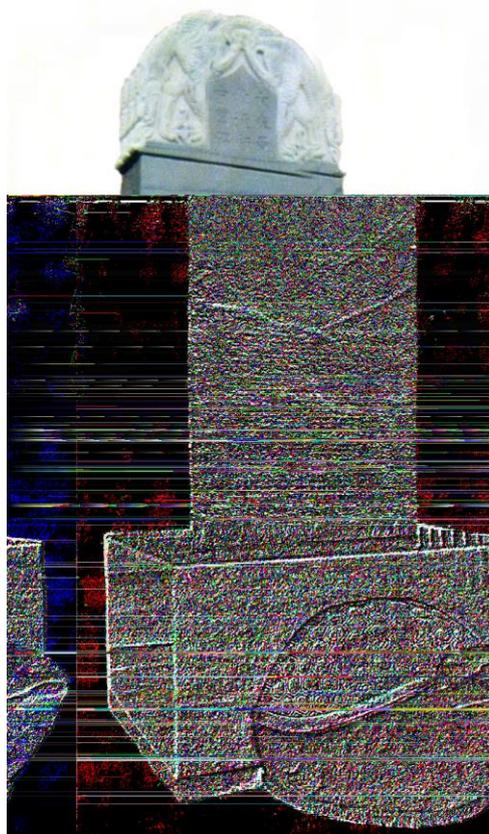
「景教碑」設立除幕式行われる。

11月3日（月・祝日）午後2時～4時当会会員川口一彦氏（日本景教研究会代表、愛知福音キリスト教会牧師、愛知書写書道教育学院々長）の教会前（柏井町）において『景教碑』模刻碑レプリカ（高さ三六〇〇cm・巾九九cm）の建碑除幕式に参列致しました。

そもそも「景教碑」とは、現在中国西安碑林博物館に「大秦景教流行中国碑」として保存されているものです。この西安碑は紀元781年に建ち850年頃迫害で埋められ1625年頃土中から発見されたものです。

内容は当時のペルシャから唐に来ていキリスト教が大いに栄えたことや、えなどが刻まれています。漢字、シリメて2000字以上の碑文になっていま揮毫者は「**呂秀巖**」と言われますが、史辞典、中国書家年鑑その他には名をいませぬ。川口氏の調査研究によれば、孫は長安城内の寧坊大秦寺にあった景校長で、その先祖は呂氏春秋の編纂者を先祖とし、その子は秦の始皇帝であると言われています。

書は唐末期に揮毫されたもので、整った書体は欧陽詢の書風を髣髴とるので、唐時代の書としての価値を十分する書碑として書的にも今後注目されてではないかと思いました。碑は、中国ト教がどのようにして伝わったのかを『キリスト教史』研究の歴史的な資料のみず遣唐使として留学して学んだ空海も「景教」の教義、思想を学んだと言われ、真言宗の



中国西安の「景教碑」模刻碑

皇帝に会聖書の教ア語も含す。碑文中国書道留めては「呂の子教神学校の呂不韋る。」と

が、簡潔させるも感じさせも良いのにキリス示す『キに留まら真言宗の

教義にも大きく影響を与えたことが川口一彦著『景教』（発行：イーグレープ 2014. 6. 30）等の研究で明らかになってきています。

現在「大秦景教流行碑」の複製碑は日本では、高野山の奥の院、京都大学総合博物館、そして今回春日井の地に設立された3カ所となったわけです。

「書のまち春日井は」三蹟の一人小野道風ゆかりの地というだけではなく、弘法大師（空海）ゆかりの伝承も多く残る地として見たときに、『景教碑』はふるさと春日井を語る上で、「書のまち春日井」の新蹟名所として地域の関心を集めて行くことでしょう。

（文責：河地 清）

次回 FORUM のお知らせ

第 23 回テーマ『御嶽講と覚明霊神』

日 時：平成 27 年 1 月 11 日（日）13:30～15:30

場 所：市民活動支援センター・ささえ愛センター 2 階第 1 集会室

フォーラム内容：

牛山町出身の僧覚明によって開基された御嶽山は山岳信仰の霊場として庶民の大切な精神的支えでした。それを経済的に支えていた御嶽講は、この地域に広範に普及していました。御嶽講がどのように地域社会に役割を果たしていたのか、その仕組と意義について……

発表者：櫻井 芳昭 氏（春日井市文化財保護審議委員）

※資料代 500 円（非会員のみ徴収）

第 24 回テーマ『小野道風春日井誕生説の検証』

日 時：平成 27 年 2 月 1 日（日）13:30～15:30

場 所：市民活動支援センター・ささえ愛センター 2 階第 1 集会室

フォーラム内容：

道風が春日井で誕生したとするならば、幼少の時代どこでどのように学んだのか、神童といわれた道風は、どのような環境の中で人格形成されていたのか……

発表者：塚田 忠雄 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム副会長）

※資料代 500 円（非会員のみ徴収）

〈事務局〉「ふるさと春日井学」研究フォーラム 会長 河地 清

TEL/FAX 0568-82-5973 メール：kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト : <http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学 検索 